

# 『懸賞問題答案平和雑誌』の原著 *Prize Peace Tracts for Young People*

坂 口 満 宏

*Prize Peace Tracts for Young People*  
and their Japanese translation series

## はじめに

ここに紹介する史料は、ジョージ・プレスウェイト (George Braithwaite) が1891 (明治24) 年5月に刊行した日本語翻訳版トラクト『懸賞問題答案平和雑誌』の原著 *Prize Peace Tracts for Young People* 全12冊の表紙である。2005年10月、私は『近代日本「平和運動」資料集成』(不二出版)の編集復刻にたずさわり、『懸賞問題答案平和雑誌』を合冊して出版された『平和問題答案平和雑誌 全』の「解題」を担当したが、その時まで確認できた原著 *Prize Peace Tracts for Young People* は、わずかにNo.5とNo.8の2点にすぎないとしていた<sup>1</sup>。その後2006年夏におこなった調査により、同トラクト全12冊の所在が明らかとなったので、ここに紹介することにした。

## 1. ロンドン平和協会と *Prize Peace Tracts for Young People*

ロンドン平和協会 *Prize Peace Tracts for Young People* の全12冊は、スワスマア大学ピースコレクション (Swarthmore College Peace Collection) が所蔵する International Peace Society Records (1817-1948, Document Group: CDG-B Great Britain) のBox 3 に収められていた<sup>2</sup>。International Peace Societyの前身が、いわゆるロンドン平和協

1 坂口満宏『近代日本「平和運動」資料集成』「解題・総目次・索引」(不二出版、2005年)。

2 <http://www.swarthmore.edu/library/peace/CDGB/intpeacesociety.htm>

会（英国平和会）である。1816年ロンドンに発足した平和協会は、「いかなる戦争もキリストの意思に反するものである」という信条を訴えるため、トラクトと呼ばれた小冊子を数多く配布し、平和主義を啓発する団体であった。

ロンドン平和協会の活動は、イギリス各地にできた地方平和協会によって支えられていた。1881年にプリシラ・ペックオーバー（Priscilla Peckover）を中心に組織されたウイズビーチ地方平和協会（Wisbech Local Peace Association）もその一つであり、同平和協会発行の機関誌が*Peace and goodwill*であった。

1889年8月、ジョージ・プレスウェイトの招きによって来日し、日本で最初の平和主義講演をおこなったウイリアム・ジョーンズ（William Jones）も、1885年から1888年にかけてロンドン平和協会の書記を務めていた。

*Prize Peace Tracts for Young People* スワスモア大学ピースコレクションが所蔵する*Prize Peace Tracts for Young People*（以下、*Prize Peace Tracts*）全12冊の著者名と題目ならびにその日本語訳の題目は以下の通りである（表1）。

すべての表紙にはエッチングによる挿絵があり、その下には小さな文字で

For free distribution in Schools, &c., apply for conditions to Mr. Henry Catford, 47, New Broad Street, London.

「学校にて*Prize Peace Tracts*の無料配布を希望するものは、ニューブロード街47番のヘンリー・キャットフォード氏まで請求されたい。」との添え書きがあった。その住所はロンドン平和協会の所在地であり、ヘンリー・キャットフォードとは1868年にはロンドン平和協会の2代目コレクター<sup>3</sup>に指名された経験のある人物であった。

## 2. *Prize Peace Tracts*の発行と懸賞金の出資者について

*Prize Peace Tracts*の発行 *Prize Peace Tracts*には発行年月日の記載がない。そこでまずは、その発行年の比定について、2つの史料から確認していこう。

3 Paul Laity, *The British Peace Movement 1870-1914*, Clarendon Press, Oxford, 2001, p. 85.

表 1 *Prize Peace Tracts for Young People* の題目と日本語訳題目

No.	“題目” 著者名／居所	日本語訳題目
1	“The White Feather of Peace” W. Robinson／Scarborough	平和の白き羽
2	“All Men Are Brothers, And Brothers Should Not Fight” S. L. Pumphrey／Evesham	人ハ凡て兄弟なり兄弟ハ戦を為 すべからず
3	“War and Christianity” Frederick Sessions／Gloucester	戦争と基督教
4	“A Slave for Many Years” Frederick Sessions／Gloucester	数年間の奴隷
5	“A Soldier Is Not a Free Man” James M. MacPhail／Partick, Glasgow	兵卒は自由なる人にあらず
6	“The Confessions of a Soldier” J.H. Yoxhall／Birmingham	兵卒の自白
7	“Arbitration the Best Way to Settle Disputes” B. McEvoy／Birmingham	調停は争論を決する最良の方法 なり
8	“War In Its True Colours” W. J. Lacey／Chesham, Bucks	戦争の本色
9	“War : Its Cost to the Producing Classes” Sidney R. Lysaght／Clifton	労役社会に於る戦争の価値
10	“Working Men and War” Frederick Sessions／Gloucester	労役社会と戦争
11	“The Folly and Mistakes of War” W. J. Lacey／Chesham, Bucks	戦争の不道理なること及び其過 誤なること
12	“The Cruelty of War” Carey Bonner／Plainstow, Essex	戦争の惨状

その 1 は、*The Friend* [London] 1883年 3 月 1 日号に掲載された、イギリスにおける懸賞付き青少年向け小冊子用原稿募集の記事である。

#### 史料 1 Prize for Peace Tracts

A Friend who desires to promote the cause of Peace, offers nine prizes of £8 each for the nine best short tracts on various aspects of the Peace question, suitable for children and young persons. Intending competitors can obtain full information as to

conditions and other particulars on application to William Robinson, West Bank, Scarborough.<sup>4</sup>

この記事によれば、9 作品にそれぞれ 8 ポンドの懸賞を出すとしている。実際に刊行された *Prize Peace Tracts* は 12 編である。現地イギリスにあって、当初、募集数を 9 作品としていたが、秀作が多かったため当選数を増やし、12 編を懸賞作品として出版したものと思われる。フレデリック・セッションズ (Frederick Sessions) のように 1 人で 3 作品受賞したものもいた。

その 2 は、発行された青少年向け小冊子をロンドンの平和協会が無料配布するので教師たちに活用してもらいたいと伝える *Peace and goodwill* 第 11 号 (1884 年 10 月) の記事である。

## 史料 2 Address to teachers

……We understand the Peace Society, 47, New Broad Street, E. C., will also grant a quantity of the “Prize Tracts for Young People” for the same purpose. These latter are especially adapted for the classes of older boys and young men.<sup>5</sup>

これらの記事により、1883 年 3 月には懸賞原稿の募集が始まり、1884 年 10 月には *Prize Peace Tracts* の印刷も済み、配布の段取りができていたことがわかる。

懸賞金の出資者      ではこの懸賞原稿の出資者は誰なのだろうか。その手掛かりはつぎの 2 つの史料にあった。

その 1 つは、ジョージ・プレスウェイトが奥付に「大日本平和会」という名称を付記して刊行した『平和問題答案平和雑誌 全』の「緒言」である。

**史料 3** 今を去ること数年前英国の有福なる茶商人平和問題に就て大に感ずる所あり此問題に関して有益なる論文を得んと欲し自ら十二題を撰み九百円の賞金を懸けて広く之を全国に募りしに人々競ふて之

4 *The Friend* [London] 1883 年 3 月 1 日号。

5 *Peace and goodwill* 第 11 号 (1884 年 10 月) 168 ページ。

に応し忽ち夥多の論文を得たるを以て其中より秀逸なる物十二を撰  
 択し之に賞金を贈れり依りて之を懸賞論文と称して世に公にせり左  
 に訳出するもの則是なり 訳者識す<sup>6</sup>

(下線は坂口が付した、以下同じ)

ここからその出資者が「英国の有福なる茶商人」であったことがわかる。

ではこの「英国の有福なる茶商人」とは誰なのか。その手掛かりは2  
 つ目の史料、すなわちジョージ・プレスウエイトがベックオーバーに宛  
 てた1895年3月27日付の書簡にあった。それは、日清戦争の勃発後、プ  
 レスウエイトが「大日本平和会」を立ち上げ、私財を投じて『平和問題  
 答案平和雑誌 全』と『聖書平和の教え』を増刷し、それらを日本各地  
 のキリスト教会や政治家たちに送ったことを知らせるものの一節である。

史料4 Some years since I had John Horniman's Prize Peace Tracts  
translated into Japanese, also a number of Texts referring to  
 Peace (Published in America as Scripture Testimony Concerning  
 Peace). I therefore had a number of these printed and sent  
 copies to each Church and Preaching Place throughout the  
 Empire. Six or seven hundred copies were thus distributed.  
 Each package contained the twelve Prize Peace Tracts and also  
 the Scripture Testimony Concerning Peace.<sup>7</sup>

この史料からジョージ・プレスウエイトが誰かにJohn Hornimanの*Prize  
 Peace Tracts*を日本語に訳させた、ということがわかる。

では、ジョン・ホーニマン (John Horniman) とは誰なのか。イギリ  
 スのウェブサイトを検索すると次のような記事にであった。

史料5 John Horniman is reputed to have been one of the last men  
 to ride to work on a black horse in full Quaker costume. That

6 前掲拙稿『近代日本「平和運動」資料集成』「解題・総目次・索引」17ページ参照。

7 その全文については、拙稿「雑誌『平和』をめぐる人々―「日本平和会」の新史  
 料とともに―」(京都女子大学大学院文学研究科『研究紀要』史学編、第5号)を  
 参照されたい。

would have been in the early days of the reign of Queen Victoria. He started a tea merchants business in 1826 and the warehouse was just north of the City in Shepherdess Walk. The story is that he was one of the first merchants to have the idea of selling tea in packets. Whether for that reason or some other, the firm prospered and advertised widely so that Horniman's tea became a household name.<sup>8</sup>

これによるとジョン・ホーニマン（1803-1893）は生粋のクエーカー教徒で、初期ヴィクトリア王朝時代の風格を備えていた人物として知られていたようである。1826年に紅茶事業を始め、紅茶を小箱に詰めて販売することを手がけた最初の一人とされている。それ以来、ホーニマンの会社は成功をおさめ、広く宣伝したことから、ホーニマンの紅茶は家庭の必需品となったということである。

「英国の有福なる茶商人」とは、小箱詰め<sup>8</sup>の紅茶を売り出したことで成功したジョン・ホーニマンにまちがいないだろう。80歳を迎えたホーニマンは、1883年の春、青少年たちにも平和問題を考えてもらいたいとの思いから懸賞論文の募集を思い立ち、自ら優秀な「答案」として12作品を選び、印刷・配布の支援をしたものといえる。

### 3. 二つの日本語版『懸賞問題答案平和雑誌』

スワスモア大学ピースコレクションのInternational Peace Society Recordsには、英文の*Prize Peace Tracts*とともに、二種類の日本語版の『懸賞問題答案平和雑誌』も保存されていた。ここではそれを写真凡例のように日本語版A、日本語版Bとしておく。両者を比較すると、以下のような違いがあることがわかった（表2）。

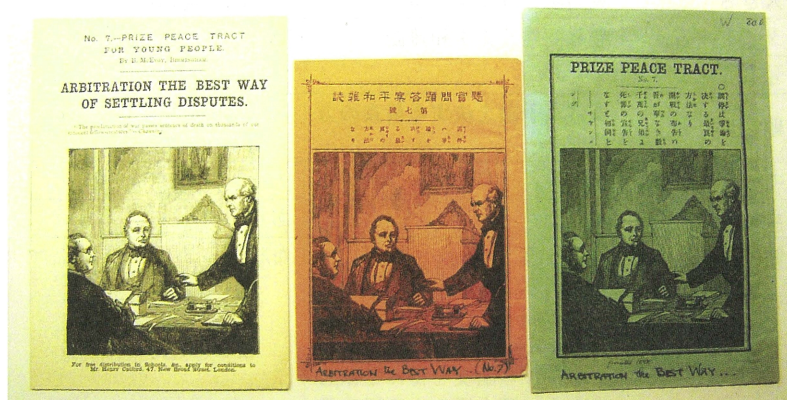
ここで参考になるのは、*Prize Peace Tracts*が日本語に翻訳され、配布されていることを伝える*Peace and goodwill*第2巻第10号（1887年7月）147ページの欄外記事である。

8 ホーニマン博物館のホームページによる。

<http://www.horniman.ac.uk/more/hornimansForestHill.php>

## 写真凡例

英語版	日本語版A	日本語版B
-----	-------	-------



〔出典〕 Swarthmore College Peace Collection 所蔵 International Peace Society Records (1817-1948、Document Group : CDG-B Great Britain) Box 3

史料6 JAPAN —The Prize Tract No.7, on Arbitration, has been translated into Japanese and printed at Tokia for distribution.

この記事から、遅くとも1887年7月にはPrize Peace Tractsのうち、「仲裁裁判」をあつかった第7号が日本語に訳され、発行されていたことがわかる。そしてそれは上記した二種類の日本語版のうち、日本語版Bであったにちがいない。

確かに日本語版Bには発行年月日が記載されていない。しかし

- ①奥付代わりに「英国平和会」と記載されていること
- ②版型の大きさが英語版とほぼ同じであること
- ③タイトルや号数の表記が英文であること
- ④題目に続けてモットー（引用句）を入れていること

から、原文の体裁を保ちつつ、急いで翻訳版を作り、印刷、配布したものとみられるからである。

表2 『懸賞問題答案平和雑誌』日本語版A・Bの比較

	日本語版A	日本語版B
大きさ	英語版よりやや小型	英語版とほぼ同じ大きさ
タイトル表記	懸賞問題答案平和雑誌	PRIZE PEACE TRACT
号数表記	第七号	No. 7
題 目	調停ハ争論を決する最良の方法なり	調停は争論を決する最良の方法なり
モットー(引用句)	なし	チャンニングの一文
エッチング扉絵	あり	あり
緒 言	<p>緒 言</p> <p>今を去ること数年前英国<sup>かへ</sup>の有  <sup>も</sup>福なる商人平和問題に就て大  に感ずる所あり此問題に関し  て有益なる論文を得んと欲し  自ら十二題を撰み六百円の賞  金を懸けて広く之を全国に募  りしに人々競ふて之に応し忽  ち夥多の論文を得たるを以て  其中より秀逸なる物十二を撰  択し之に賞金を贈れり依りて  之を懸賞論文と称して世に公  にせり左に訳出するもの則是  なり</p> <p>訳者識す</p>	なし
奥 付	<p>明治廿四年五月二十日 印刷  同 年五月三十日 出版</p> <p>定価金十銭</p> <p>発行者 ジョージ、ブライスウ  エイト</p> <p>横浜山手十四番館</p> <p>印刷所 横浜製紙分社  横浜市太田町六丁目九  十四番</p> <p>発売所 警醒社書店  東京新橋出雲町壱番地</p>	英国平和会出版

ジョージ・プレスウェイトの来日は1886年5月である。プレスウェイトはすでにイギリスで発行されていた*Prize Peace Tracts*全12冊を日本に持ち込み、来日後早々にして翻訳、印刷、配布に着手したのだろう。そうしてまず出来上がったのが日本語版BのPRIZE PEACE TRACTである。そしてそれらはいちやくペックオーバーの元に送られ、*Peace and goodwill*で紹介されることになった。

この日本語版Bをもとに3年ほどの時間をかけて作り直したのが日本語版Aの『懸賞問題答案平和雑誌』である。

- ①タイトルに日本語訳を与え、『懸賞問題答案平和雑誌』として分かりやすくした
  - ②「緒言」を追加することで日本の読者に『懸賞問題答案平和雑誌』の来歴と配布の趣旨を明らかにする工夫をした
  - ③「奥付」を付け加え、定価、発行者、印刷所、発売所を明記した
- 以上のことから、ジョージ・プレスウェイトによる日本語版の*Prize Peace Tracts*には

- ①PRIZE PEACE TRACT（発行年月日不詳、トラクト版）
- ②『懸賞問題答案平和雑誌』（明治24年5月30日出版、トラクト版）
- ③『平和問題答案平和雑誌 全』（明治24年5月30日出版、合冊版、英文表記PRIZE PEACE TRACT）
- ④「緒言」の表記を異にし、奥付に「大日本平和会」が付記された『平和問題答案平和雑誌 全』

の4種類が存在したことが明らかとなった。

だが、依然として、初版にあたるB版、第二版と称するA版のいずれとも、誰が翻訳にあたったのかという点については不明である。今後の課題としておきたい。

そこで以下では、スワスモア大学ピースコレクションが所蔵するInternational Peace Society Recordsに保管されていた*Prize Peace Tracts*全12冊の表紙を日本語版のそれと対比させながら紹介することにして。英語版の*Prize Peace Tracts*を比べてみても、飾り罫線の種類やエッチングの描線に精粗があることに気づく。英語版にもいくつかの異本や改版があったものと思われる。

史料編

『懸賞問題答案平和雑誌』の原著Prize Peace Tracts for Young People  
—スワスモア大学ピースコレクション所蔵International Peace Society Records—

写真1 Prize Peace Tracts for Young People No. 1



写真2 Prize Peace Tracts for Young People No. 2



写真3 *Prize Peace Tracts for Young People* No. 3

英語版

日本語版A

日本語版B

写真4 *Prize Peace Tracts for Young People* No. 4

英語版

日本語版A

日本語版B



写真5 Prize Peace Tracts for Young People No. 5

英 語 版

日本語版A



写真6 Prize Peace Tracts for Young People No. 6

英 語 版

日本語版A

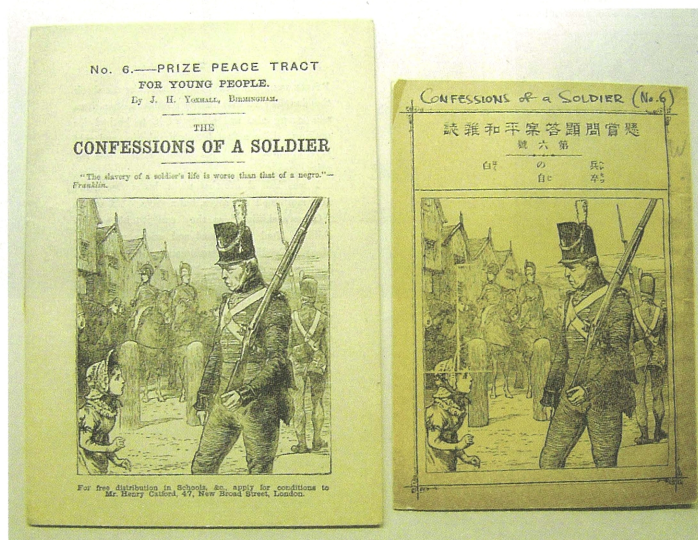


写真7 Prize Peace Tracts for Young People No. 7

英語版	日本語版A	日本語版B
-----	-------	-------

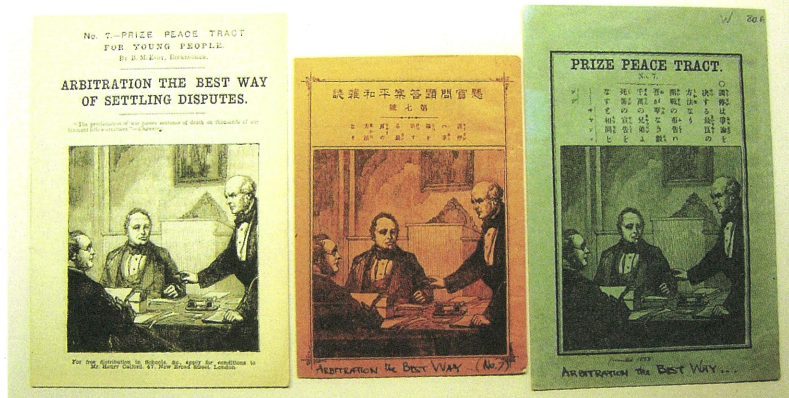


写真8 Prize Peace Tracts for Young People No. 8

英語版	日本語版A
-----	-------

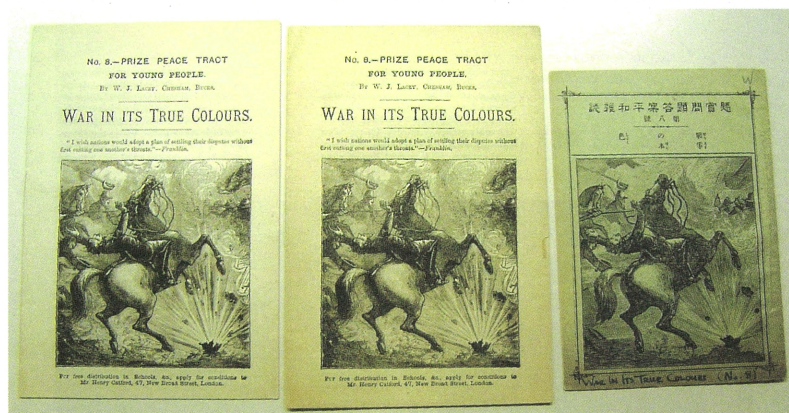


写真9 Prize Peace Tracts for Young People No. 9



写真10 Prize Peace Tracts for Young People No. 10

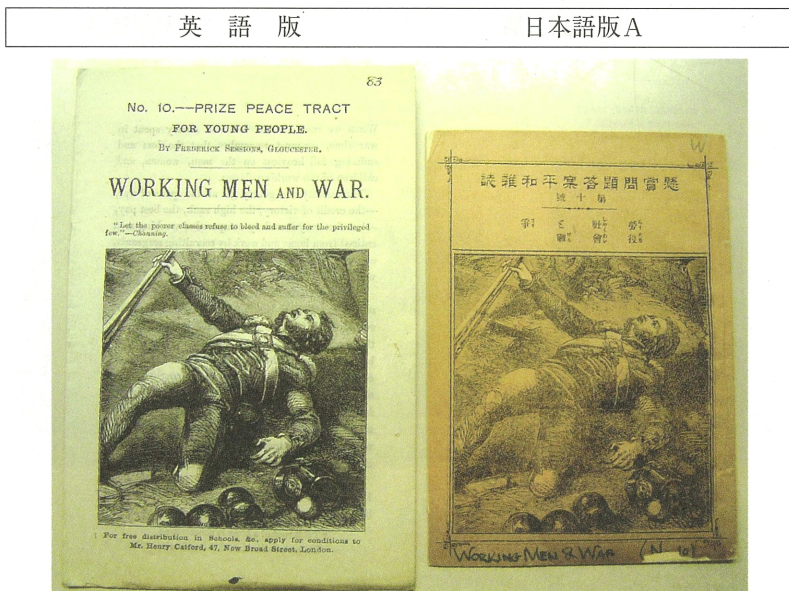
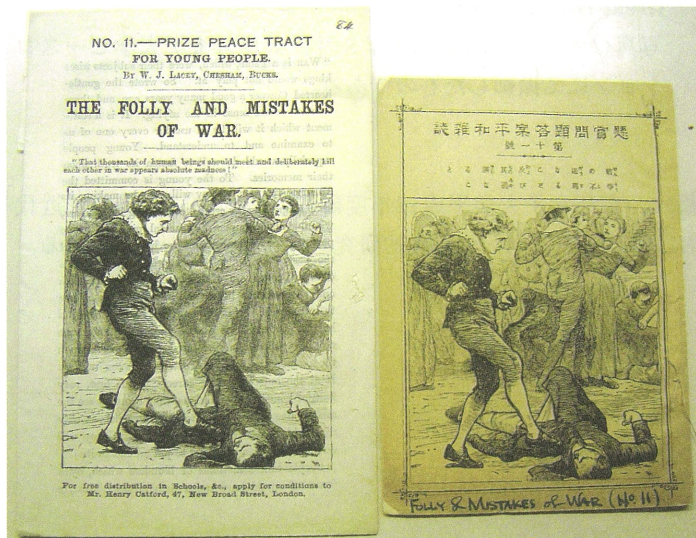


写真11 *Prize Peace Tracts for Young People* No. 11

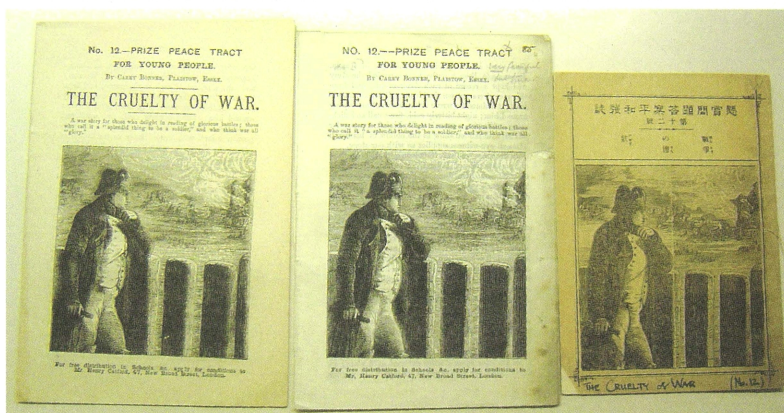
英語版

日本語版 A

写真12 *Prize Peace Tracts for Young People* No. 12

英 語 版

日本語版 A



〔典拠〕 Swarthmore College Peace Collection所蔵International Peace Society Records (1817-1948、Document Group : CDG-B Great Britain) Box 3.

写真はすべて坂口が2006年8月、スワスマア大学ピースコレクションにて撮影したものである。

\* 本稿は、京都女子大学平成18年度研究経費助成研究課題「近代日本における『平和運動』の基礎的研究」による成果の一部である。